

第3回 大津町介護保険事業計画等策定委員会（書面開催） ご意見等

No.	項目	ご意見	計画への反映など
1	認知症関係	どうしても集団になじめない高齢者、1人を好まれる高齢者をどのように巻き込むかが、課題となる。生きがい就労や老人クラブ、通いの場などに参加できる人はいいが、そのようなことを面倒に思い参加できない高齢者については個別のフォローが必要と思われる。	米村委員のご意見にあるようにアプローチの方法は本人の性格、生活環境、生活歴など個別性を重視し、その方にとってどのようなフォローの方法が受け入れられるのか丁寧なアセスメントが欠かせないと考えています。その方にあった「個別のフォロー」を検討をしていきます。今後も委員の皆様の助言をお願いします。
2	保険料	保険料が高いことでサービスを利用しない人もいるかもしれないと考えると、保険料が安くなることは、よりサービスを受けやすくなることに繋がっていくのではないかと思う。	—
3	高齢者の保健事業と介護予防の一体化事業 (素案P53)	通いの場等への積極的関与や戸別訪問等の支援を行う医療専門職に「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」が明記されたので、地域リハビリ広域支援センターとして関与できればと思う。	【追記】 P48（介護予防専門職派遣事業）、P55（高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施）に追記 「地域リハビリ広域支援センター等に協力及び専門的な支援を求めながら」
4	介護人材の確保 (P97)	「介護人材の確保」は町が示しているとおりに現時点では難しいと思う。町が計画している「施設等との情報交換」の中でこういったことが課題なのか等を把握し、それに基づいて町としてできることをやっていく必要がある。また、「施設等との情報交換する場を設ける」を継続して取り組むことが大切。	【表現の修正】 P97 より分かりやすく具体的に表現します。 「施設等と定期的に協議ができる機会を設け」⇒情報交換会

第3回 大津町介護保険事業計画等策定委員会（書面開催） ご意見等

No.	項目	ご意見	計画への反映など
5	就労的活動支援コーディネーター（P99）	町が配置を考えている「就労的活動支援コーディネーター」を活用して、介護施設等への介護助手のつなぎやICT導入の支援等を行い、魅力ある事業所づくりを町が支援してはどうか。	<p>【表現の追記】P99</p> <p>「マッチングにおいては、地域包括支援センターに配置する「就労的活動支援コーディネーター」がその役割を担います。」⇒<u>担い、介護施設等との定期的な情報交換会を活用して、より魅力ある施設づくりに協働して取り組みます。</u></p>
6	まごころ生活支援事業（P44）	就労的活動支援コーディネーターを配置し、企業や社会福祉法人、NPO法人等と連携を図りながら、さらに充実した事業になるよう仕組みづくりを行うことは非常に良いことなので、積極的に取り組んでいただきたい。	<p>R3年度より、「就労的活動支援コーディネーター」を地域包括支援センターに配置し、各団体や地域を巻き込み、介護予防や高齢者の生きがいがいづくりにつながる施策を創り上げていくことを目指しています。</p> <p>関係者の方々には、ご協力のほど、よろしく申し上げます。</p>
7	介護予防専門職派遣事業（P48）	通いの場の数を増やすことと共に現在の通いの場の継続が重要。そのためには「魅力ある通いの場」になるよう、介護予防体操を基本としながらも、スポーツ推進員の活用や農作業等のちょっとした就労（農福連携）を行ってはどうか。	検討していきます。

第3回 大津町介護保険事業計画等策定委員会（書面開催） ご意見等

No.	項目	ご意見	計画への反映など
8	ケアマネジメン トの資質向 上（P56）	自立支援に向けたケアマネジメントの中核を担うケアマネジャーを対象とした研修や会議を開催するよう検討してほしい。すでに実施している場合は、継続してほしい。	ケアマネジャーを対象とした自立支援に向けた取組みの1つとして、毎月地域ケア会議を実施し、医療・介護・福祉等の多方面の視点から事例の検討を行っています。多職種で検討することで、ケアマネジャーへの気づきの場にもなり、利用者の自立支援につながることを期待しています。今後もより充実したものになるよう、適宜会議方法等を見直しながら継続していきます。
9	介護予防	利用者や家族はサービスを利用することや介護度を「現状維持」することを希望されることがあるが、「改善」できるということをもっと町民の方々にも周知することが必要であり、ケアマネジャーとも共通認識を持つことが必要と思われる。	【表現の追記】 P56（自立支援に向けたケアマネジメントの充実） 「効果的な介護予防ケアマネジメントの観点から、 <u>関係者間での意識の共有を継続していきます。</u> 」⇒ <u>関係者間（本人、家族、ケアマネジャー、サービス事業所等）での意識の共有を継続していきます。また、広く町民にむけた啓発（サービスを利用することで維持改善を目指すこと）も行っていきます。</u>

第3回 大津町介護保険事業計画等策定委員会（書面開催） ご意見等

No.	項目	ご意見	計画への反映など
10	介護予防（ほりだし健康教室） （P63）	ほりだし健康教室（短期集中型の介護予防教室）の終了後、継続して利用可能な地域での活動の場が少ない。地域や介護予防団体へつなぐことが必要と記載があるとおり、その体制の整備をお願いしたい。	令和2年度より、地域住民の主体的な取り組みによる活動の場の創設支援として、通称「地域アプリハ」を開始しました。本年度は感染症蔓延のため実施予定4団体のところ、外牧区、小林区の2団体が12月より取り組んでいただいています。この半年の取組の後、運動教室や通いの場等と併せて、継続した地域での活動の場となるよう、住民の自主性を育てながら、その時期に応じた支援体制を作っていくところです。 また、一体化の事業と併せて、地域活動の場への管理栄養士等による保健・栄養指導を取り入れ、身近な場所での健康づくりの機会を提供していきます。
11	見守りネットワークの推進 （P70）	国は令和3年度予算で「高齢者住まい・生活支援伴走支援事業」を新規事業として計画している。住まいと見守りをはじめとする生活支援を一体的に進めていくことが重要。そこで、「居住支援法人」等を活用した見守り体制の検討をお願いしたい。	現在も主に「暮らしの相談窓口（福祉課を中心とする包括的相談支援体制）」における相談の中で、住まいの確保の場面において、熊本県が指定しているいくつかの居住支援法人と連携しています。見守り体制への活用については今後検討していきます。

第3回 大津町介護保険事業計画等策定委員会（書面開催） ご意見等

No.	項目	ご意見	計画への反映など
11	見守りネットワークの推進（P70）	<p>①安否確認等の見守り「さわやかコール」、②生活支援「シルバー人材センター」、③通いの場（包括支援センター）の3者をネットワークできないか検討をお願いしたい。例えば、「さわやかコール」において「生活支援が必要」というような話が出た場合にはシルバー人材センターにつなぐ、また「少し身体機能が落ちできた」というような話が出た場合には「通いの場」等につなぐなどのネットワーク化。</p> <p>「さわやかコール」…水、金曜にボランティア5人が約62名の高齢者に対して電話で安否確認をしている。（大津町社会福祉協議会による事業）</p>	<p>ご意見、ありがとうございます。</p> <p>今後、「さわやかコール」を実施している社会福祉協議会とも相談しながら、検討していきます。</p>
12	認知症関係（P73）	<p>早期発見・早期対応のため、ある自治体では一定年齢の方々全員を対象に「MCIチェック」を実施していた。大津町でもあらゆる機会を通じて「MCIチェックリスト」の導入を検討してほしい。</p> <p>「MCI」…軽度認知障害</p>	<p>現在、介護予防事業の中でMCIチェックリストを活用しています。今年度より、認知症ケアパスにおいてもチェックリストを掲載し、MCIに関する普及・啓発及び気軽にできるスクリーニングの方法として取り組んでいます。今後は、MCIチェックリストに該当した方への具体的な支援について強化していきます。</p>
13	高齢者虐待防止の推進（P82）	<p>施設等の質の向上により虐待はなくなると思われる。施設等の管理者の研修や会議が必要になると思われるが、「施設と情報交換をする場」を活用して継続的に実施してほしい。</p>	<p>【追記】P82に追記</p> <p>「また、施設等の従事者による虐待防止については、後述する施設との情報交換会や事業所の実施指導・集団指導の場面において防止策を共に検討していきます。」</p>